

二人の「イチロー」で新聞・テレビがにぎわった二十五日、花巻東高校ナインが甲子園の選抜大会で二十五年ぶりに県勢勝利を挙げた日と重なった。

花巻東高エースの菊池雄星投手は、あわやノーヒットノーランという快投をみせ、チーム得意の機動力も存分に発揮しての見事な勝利だった。

佐々木洋監督が選手た

ば切りがないが、ここはあえて原辰徳監督に着目したい。

自称「長嶋オタク」の自分としては、原監督の采配に時々首をかしげたくなる場面もあったが、ともかくにも今大会では試合を重ねるごとに選手たちが伸び伸びとプレーできていた事実があるからだ。

イチローがもがき苦しんでいる時にも持ち前の

いわての

風

ちに全幅の信頼をよせ、それに選手たちが立派に応えた姿が印象に残った。ここには、選手を送りだした佐々木監督の誇りと責任が感じられた。さて、WBCで世界一になった侍ジャパンのイチローだが、プレッシャーを振り払って決勝戦でタイムリーヒットを放ち面目を保った。さらには、二大会連続MVPの松坂など、殊勲選手を挙げ

天真らんまんさで、イチローはじめ自らが指名し招集した選手たちを、心から信頼し切っていた。この姿勢こそ、北京五輪でジャパンが欠落していた部分ではないか。

人は信頼されると応えようとするものだから、選択者でもある監督の一貫した姿勢に選手たちも、燃えたとに相違ない。

人は信頼されると応えようとする

関 洋一 (二関市・企業世話人)



選ぶ側の責任も重要

また、同じ日に新聞にぎわしたもう一人のイチロー(小沢民主党代表)は、司法と行政府の挟み撃ちにあい、苦悩している。視聴率を競うワイドショーよろしく、バッシングの対象を追いかけ面白おかしく取り上げる風潮とも相まって、世論はこのほか厳しい。

ただ、説明責任を求め

また、同じ日に新聞にぎわしたもう一人のイチロー(小沢民主党代表)は、司法と行政府の挟み撃ちにあい、苦悩している。視聴率を競うワイドショーよろしく、バッシングの対象を追いかけ面白おかしく取り上げる風潮とも相まって、世論はこのほか厳しい。

ただ、説明責任を求め

また、同じ日に新聞にぎわしたもう一人のイチロー(小沢民主党代表)は、司法と行政府の挟み撃ちにあい、苦悩している。視聴率を競うワイドショーよろしく、バッシングの対象を追いかけ面白おかしく取り上げる風潮とも相まって、世論はこのほか厳しい。

ただ、説明責任を求め

せき・よついち 52年紫波町生まれ。東京理科大学。商社勤務、誘致企業取締役、県中小企業支援センター・プロジェクトマネジャーなどを経て現在は中小企業大学校講師、岩手大学客員教授、盛岡市創業支援マネジャーなど。

で、万作は「おれがだました」という人間が一人もないことの矛盾を鋭く糾弾したのだ。

それから六十年以上の時を経たが、万作が危惧したとおり、マスコミはじめ国民自身にも「だまされた」と人ごとで済ませようとする風潮が厳然とまん延している。

しかし、冒頭の両監督の例のように、誇りと責任を自覚することで、当然ながら満願成就の結果が出ているのは心強い。

大会メンバーであれ、政治家であれ、かの国のオバマ現象であれ、「選択者自らがその誇りと責任を自覚」して選択し、それを支える意思と行動を貫けるかどうかだ。

秀麗高き岩手山と清流長き北上川に育まれた当地ゆかりの人々は、そうした選択者としての矜持を持ち合わせているように思えるのである。